



附属病院の次期中期目標・中期計画の素案です。 皆様のご意見をお寄せください！

医学部次期中期目標・中期計画検討委員会附属病院部会 井川 幹夫

平成16年度から平成21年度までの第一期中期目標・中期計画を皆様のご協力のもとに推進し、中期計画、年度計画の実施状況についてはホームページの医学部掲示板に掲載されています。

平成22年度からの附属病院次期中期目標・中期計画の素案(表)は大学全体の組織、教育研究、運営等の見直しの中で、附属病院の機能充実と強化を図ることを目標として作成されています。この素案は6月に文部科学省に提出済みで、国立大学法人評価委員会で審議

され、この審議結果に基づいて見直しを行い、来年早々に中期目標・中期計画の原案を再び文部科学省に提出することになります。優れた医療人の育成、地域との連携を推進して特色のある病院運営の推進など文部科学省から要請されている事項はこの素案に盛り込まれていると思いますが、病院職員の皆様のご意見によりブラッシュアップしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

第二期 中期目標・中期計画原案

中期目標	中期計画
附属病院に関する目標	附属病院に関する目標を達成するための措置
グローバルに活躍する能力を有し、地域医療に貢献できる幅広い医療人を育成する。	1-1 地域医療教育研修センターを中心に、地域に立脚した魅力ある研修を推進するとともに、医療人研修(WWAMI)プログラムの成果を活用し、海外での地域医療研修も加えて、国際的視点を持つ医療人育成プログラム「島根モデル」を推進する。 1-2 国際貢献できる医療人を育成するため、先進的医療について、特にアジアの諸国との交流を推進・強化し、相互の医療レベルを向上させる。
島根県の医療の中核として臨床研究を推進するとともに、より安全、安心かつ質の高い医療提供体制を構築する。	2-1 附属病院再開発等により、救急体制の強化を含む地域医療連携の推進と、大規模災害時にも十分機能する医療機能を確保するとともに、島根県における最重要基幹病院としての機能強化と先進医療の充実、及び地域を含めた医療安全と個人情報保護を推進する。 2-2 疾病予知予防拠点と附属病院腫瘍センターが連携し、「未病」対策も含めた臨床研究を通じて先進的な生活習慣病及びがん診療体制を提供する。
ワーク・ライフ・バランスを重視した、働きやすい職場環境の確立と効率的な病院運営を推進する。	3-1 全国で唯一「ISO14001」と「働きやすい病院評価」の認証を受けている大学病院として、環境に配慮し、かつ、男女共同参画を推進し、就業形態の改善を目指すとともに、病院経営企画戦略会議を中心に経営分析に基づいた戦略的なプロジェクトを展開する。

理念
地域医療と先進医療が調和する大学病院



目標 患者さん中心の全人的医療の実践
人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
地域医療人との連携を重視した医療の提供
地域社会に還元できる研究の推進

- 目次 -

附属病院の次期中期目標・中期計画の素案です.....	1P	2交代制勤務導入後の評価と拡大に向けて.....	15P
何事も基礎が大切 病院再開発の進捗状況.....	2P	本院のユビキタス環境を全国に発信.....	16P
平成21年度 病院経営改善目標値.....	3P	島根県第一号のがん薬物療法専門医に認定されました.....	17P
マイクロ波子宮内膜アブレーションの先進医療認可について.....	4P	感染管理認定看護師資格を取得しました.....	17P
「切らずに治す」肺がん、肝臓がんに対する定位放射線治療を開始しました.....	5P	認定言語聴覚士(摂食・嚥下障害領域)が誕生しました.....	18P
ナビゲーションシステムを導入しました.....	6P	産学協同研究「槍製寝具による腰痛軽減効果の調査」.....	18P
小児外科で、手術を日帰りでできるようにしました.....	6P	島根の看護師就職キャンペーン「ソレイユ」合同セミナー参加報告.....	19P
かかりつけ歯科医院における口腔がんの簡易検査システム.....	7P	早期MRI検査の試行開始.....	20P
完全ディスポ型経腸栄養剤用バッグに変更しました.....	7P	医学部会館の利用促進について.....	20P
平成21年度 病院医学教育研究費配分一覧.....	8-10P	病院運営委員会の報告.....	20P
大学病院連携型高度医療人養成推進事業(4大学)プログラム.....	11P	女性相談外来の受け付けを行っています.....	21P
クリニカルパスシリーズ～「糖尿病教育入院の電子クリニカルパスの現状と課題点」～.....	12P	入院中の子どもたちのための花火大会.....	22P
ERへの「紹介状履歴の表示」による病診連携の推進.....	12P	初夏の落語と紙切り公演.....	22P
「入院前スクリーニング」の実施による退院支援の強化.....	13P	ボランティア活動について.....	23P
新インシデントレポートシステム「セーフマスター」について.....	14P	ボランティアコンサートの報告.....	23P
		行事予定、研修会・講演会・学会等の予定.....	24P

何事も基礎が大切 病院再開発の進捗状況

施設整備課

2月18日の起工式も無事に終わり、その後工事用地の範囲内にあった既存RI施設、屋外排水管等の支障物の撤去を行い、5月の連休明けから平成23年春の竣工を目指して本格的な工事に着手しています。

キャンパス内の地盤は、砂質土で地下水が多く出るなどの特徴があり、大きな建物を建てるにはまず地盤を強くする必要があります。そのため現在は直径70 cm、長さ20 mの穴を約900ヶ所程掘り、その中に砂を入れて地盤を固める工事（地盤改良）を行っています。その後に長さ50 mの杭を打ち強固な建物基礎を構築していきます。その工事が年末近くまでかかります

が、この目立たない工事が地震等の災害に強い建物を作ることとなります。その後は建物の構造体を組み立て来年の秋には全体像を見ることが出来ます。当分の間は騒音、振動、埃等でご迷惑をおかけすることもありますがおよろしくお願いします。

また、しろうさぎ第15号にてお知らせしました立体駐車場も5月の連休明けからスタートし秋の完成を目指して工事を進めています。病院玄関へエレベーター等で結ばれた便利な駐車場となりますので、工事の期間は駐車場の不足で大変ご迷惑をお掛けしていますがご協力のほどよろしくお願いします。



病棟新築現場状況(地盤改良用重機2台にて施工中) 南側より撮影



立体駐車場完成予想図



新病棟完成予想図

平成21年度 病院経営改善目標値

病院経営企画戦略会議（会計課経営支援室）

平成21年度目標値が5月開催の病院経営企画戦略会議において決定されました。これに基づき、本年1月に設置した附属病院クリニカルパス委員会の下に電子クリニカルパスの普及・活用や総合待合ホールに設置した「入院総合相談室」での入院予定者のスクリーニングを実施するなどし、平均在院日数を短縮し病床回転率を上げるなど効率的な病床運用を行うこととし、また、地域医療機関とのより密接な連携を保ち紹介率向上を図るなどし、よりよい医療の提供と患者サービスの向上の下に、附属病院収入の確保を図ることとしました。

さらに、島根大学中期目標・中期計画に基づく21年度附属病院年度計画の推進及び専門性を考慮した医療従事者の養成並びに働きやすい病院に向けて、より一層業務改善等の実現を図るため、教育・診療・運営改革と医療資源の有効的な活用に係る具体的な目標を掲げ取り組むこととしました。

具体的な目標値・改善事項等は、次のとおりです。

1. 収益からの病院全体目標値について

区分	目標値	参 考		
		20年度実績	19年度実績	18年度実績
入院診療単価	47,000円 年度単価	45,881円	44,745円	43,473円
一般病床平均在院日数	16日 21年度末までに	17.8日	18.5日	19.2日
病床稼働率	80%以上 継続的に維持	82.5%	81.9%	82.0%
年間新入院患者数	9,600人 (月平均800人)	9,462人 (月平均789人)	9,102人 (月平均759人)	8,818人 (月平均735人)
紹介率	60% 21年度末までに	56.8%	48.1%	46.2%
逆紹介率	40% 21年度末までに	37.1%	34.2%	35.5%
院外処方箋発行率	93%以上 年度平均	90.4%	91.4%	92.5%
医療費率	34.5% 年度平均	33.9%	33.0%	32.9%

【主区分等説明】

入院診療単価：年間総診療費用請求額を年間延入院患者数で除して得た単価で、患者1人1日当たりの平均診療経費であり、一般病床平均在院日数16日を含む効率的な入院診療により単価アップを目指す。

一般病床平均在院日数：精神科神経科病床を除く一般病床の1人当たり平均入院日数であり、クリニカルパスの活用や地域医療機関との連携により計画的な入院計画に基づき、入院日数の減を目指す。

年間新入院患者数（精神科神経科を除く。）：年間総実入院患者数であり、在院日数の減に伴い新患者の獲得が必要であるため、地域医療連携センターなどを基として地域医療機関との連携を密接にし、患者紹介などをより積極的に行い新患者の獲得を目指す。

医療費率：年間総患者医療費（医薬品費、医療材料費、検査委託費、寝具経費等）を年間総診療費用請求額で除して得た割合であり、医療材料等購入価格の削減と効率的な使用により、その低下を目指す。

2. 教育・診療・運営改革と医療資源の有効的な活用に係る目標

病院再開発計画基本構想を基とした病院再整備の推進

7対1看護基本料算定に向けた看護体制整備

地域連携型高度医療人育成事業（3大学連携、4大学連携）の推進

都道府県がん診療連携拠点病院としての連携強化

地域医療連携センターのもとに地域医療機関等との連携強化

安全マニュアルの活用、研修会の開催等により医療事故防止の実現

電子クリニカルパスの普及と活用

肝疾患診療連携拠点病院としての相談支援体制の強化と医療教育・研修の推進

病院医学教育センターの機能充実

地域医療教育研修センターの機能充実

内視鏡手術トレーニングセンターの機能拡充

女性スタッフ支援室のもとに離職者復帰支援プログラムの強化・充実

学外の臨床研修協力医療機関との連携の強化

医療材料の経費削減と効果的調達方法の検討・推進

マイクロ波子宮内膜アブレーションの先進医療認可について

産科婦人科 中山 健太郎 宮崎 康二

従来の過多月経の代表的な治療方法のうち、子宮摘出手術は患者さんの負担が大きく、ホルモン療法は薬効が切れれば効果も見込めなくなるなど、患者さんにとって必ずしも好ましいものではありませんでした。近年、治療時間約30分で、お腹を切らずにする治療で、負担が小さいにも拘わらず持続的な効果が見込める、子宮内膜だけを取り去るというマイクロ波子宮内膜アブレーションと呼ばれる新しい治療方法が確立されました。過多月経のみならず更年期の異常大出血にも効果があります。本院は、この治療方法について厚生労働省の承認を受けて先進医療として実施していますが、日本で4番目の認可施設であり、中国、四国、九州地方では唯一の医療機関です。

過多月経とは月経時の出血が多いために健康を損なっている状態です。多量の出血は貧血を引き起こし、動悸や立ちくらみを引き起こします。月経出血のたびに仕事が出来ない、衣服や寝具を汚してしまうような状態が繰り返され、生活の質が著しく低下する事があります。これまで、過多月経の症例で保存的治療（薬物療法）が困難になった場合は、開腹・腔式・腹腔鏡により子宮摘出手術が行われてきましたが、一定

の手術侵襲と術中・術後合併症がありました。マイクロ波子宮内膜アブレーション治療は、経腔的に挿入したマイクロ波アプリアケーターによって、子宮内膜を焼灼します。安全性が高く、術後合併症も少なく、お腹を切らずにすみます。医療費も子宮摘出術に比べて低額であり、出血の減少が図れることから、血液凝固異常のある患者さんの過多月経も、治療することができます。

2泊3日の入院で治療可能で、退院後は、すぐに普通の生活が可能です。先進医療の認可により保険適用外の先進部分とその他の保険適用部分の併用が可能となり、入院料等を含めて15-16万円程度の費用が必要となります。但し、妊娠希望の方には適応できません。

マイクロ波子宮内膜アブレーションは子宮摘出術の代替療法として、短時間に安全に実施できる治療法です。閉経までの5-10年を子宮摘出が嫌なために、十分満足できない状態を我慢して過ごしている患者さんは多いと考えられています。しかし、その多くはマイクロ波治療によって子宮を温存した状態で過多月経を治療できるのです。

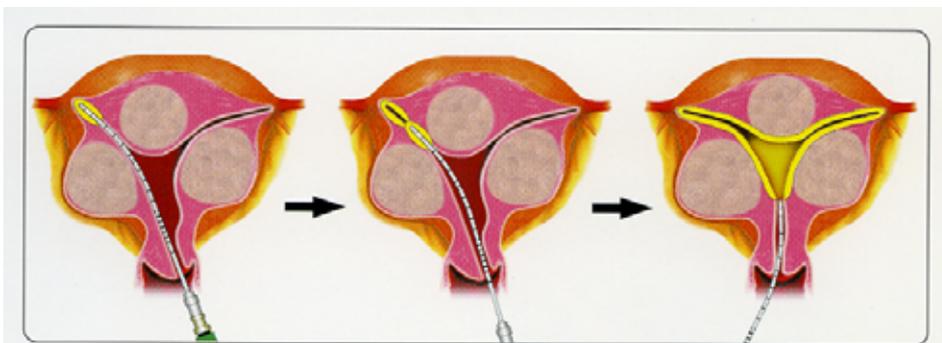


図1 サウンディングアプリアケーターによる拡大した子宮へのマイクロ波子宮内膜アブレーション



図2 マイクロターゼAZM-520



図3 サウンディングアプリアケーター

マイクロターゼ専用プローベ 深部凝固用電極 曲げ型(CB)(サウンディングアプリアケーター)を用いたマイクロ波による過多月経の治療法 alfresa(株)より引用

「切らずに治す」肺がん、肝臓がんに対する定位放射線治療を開始しました

放射線治療科 内田 伸恵

がんの放射線治療は、照射技術の進歩が目覚ましく、従来に比べ安全で確実な治療が可能となってきています。「定位放射線治療」はその一つで、腫瘍の形に合わせた放射線のビームを多方向からピンポイント的に集中させて照射するものです。当院では平成19年から脳腫瘍に対する定位放射線治療をおこない良好な成績を得ています。今回、体幹部定位放射線治療の施設基準に適合し、「体幹部の定位放射線治療」を開始することになりました。費用は自己負担3割の場合、放射線治療部分が約20万円です。この施設基準に適合するには、専用機器の整備の他、放射線治療の専門医や診療放射線技師、治療機器や治療計画の精度管理を専門とする人（医学物理士等）が常勤するなどの人的整備も必要であり、山陰地方では初めてとなります。

体幹部の定位放射線治療の対象は5 cm以下の大きさの肺がんや肝臓がんで、3個以内の転移性病巣に対し

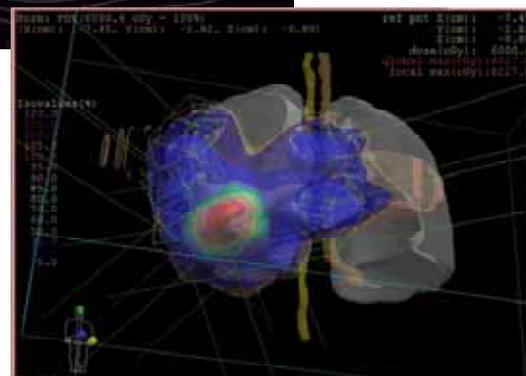
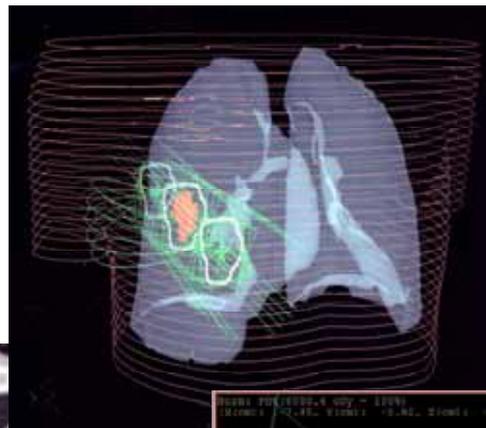
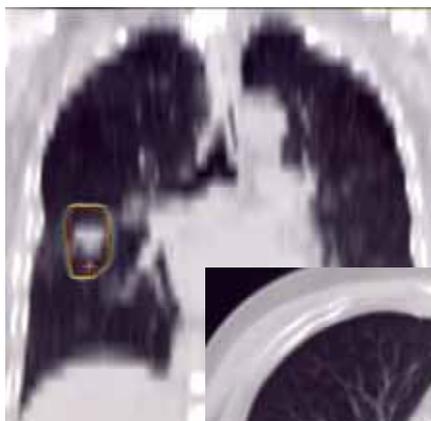
ても治療可能です。日本の複数施設の共同研究では、リンパ節転移のない原発性肺がんに対して、手術切除と遜色ない良好な治療成績を得ています。肝臓がんについても、通常おこなわれるラジオ波焼灼術が手技的に困難な部位にも治療可能です。肺がんや肝臓がんの場合、呼吸などで病巣の位置がずれる可能性があるため、専用装置で呼吸をモニターしながら治療をおこないます。従来の放射線治療では、5-7週間にわたって25回から37回の放射線治療をおこないますが、定位照射では1-2週間・数回の照射で治療が終了します。定位放射線治療は、高齢者や合併症のために手術を受けることができない人にも安全に施行可能です。肺がんや肝臓がんの患者さんに対して「切らずに治す」という新たな治療の選択肢を提供できる定位照射を、今後各診療科と協力して積極的におこなっていく予定です。



呼吸監視システム(abches)

APEX Medical, Inc.

肺がんに対する定位放射線治療の計画



ナビゲーションシステムを導入しました

耳鼻咽喉科 青井 典明 川内 秀之

慢性副鼻腔炎（ちくのう症）、鼻たけ、副鼻腔のう胞に対して、現在では手術侵襲の少ない鼻内内視鏡手術が主流となっています。当院でも鼻内内視鏡手術を導入して10年が経過しました。鼻副鼻腔は眼窩や頭蓋底に接しており、まれに手術により眼窩内合併症や頭蓋内合併症を起こす場合があります。このたび2009年3月にナビゲーションシステムを導入し、さらに安全に鼻副鼻腔手術が行えるようになりました。

ナビゲーションシステムでは、手術操作を行っている部位を、術前のCT画像（水平断、冠状断、矢状断）上に1mm未満の誤差でリアルタイムに表示することができます。手術中に確実に眼窩壁や頭蓋底の位置が把

握できるため、これらの損傷を予防することができます。また2008年4月からはナビゲーションシステムの保険適応が認められるようになりました。

2009年3月にナビゲーションシステム導入後、鼻内内視鏡での手術が難しい前頭洞のう胞、蝶形骨洞炎などに対しナビゲーションシステムを併用し、合併症なく手術を行うことができます。鼻副鼻腔腫瘍や耳内視鏡手術での使用も非常に有用であると考えられます。今後も研鑽を重ね、より安全な手術を行えるよう努力をしまいたいと考えておりますので、各部署のご協力をよろしくお願いいたします。



ナビゲーションシステム本体



ナビゲーションシステム併用での鼻内内視鏡手術の風景

小児外科で、手術を日帰りで行えるようにしました

小児外科 久守 孝司
3階西病棟 小池 節子

小児外科では、本年5月から、従来1泊2日で行ってきた手術を、日帰りで行えるようにしました。日帰り手術のスケジュールは下記の通りです。

対象となるのは、手術前の前処置が簡単で、手術後数時間で経口摂取が可能となる疾患です。鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣、包茎、良性腫瘍など、多くの疾患が含まれます。一応、体重5 kg以上の小児を考えています。

慣れない病院に宿泊する必要がなくなりますし、特に兄弟姉妹のいる御家族においては、親が入院付き添いのため不在となることを避けることができます。しかもほとんどの手術で退院後の消毒は不要ですし、退院したその日から入浴が可能となる手術を行っています。

小児外科の日帰り手術に、ご理解・ご協力をお願いいたします。

【日帰り手術のスケジュール】

予め、別の日に、術前検査と麻酔科受診を終了
手術日：朝(8:30) 小児病棟に入院 昼 手術 夕方 退院

かかりつけ歯科医院における口腔がんの簡易検査システム

歯科口腔外科 石橋 浩晃

歯科口腔外科では、地域の歯科医院と連携したお口の病気の検診に取り組んでいます。なかなか治らないお口の異変に気づいたら、まずお近くの歯科医院を受診してください。歯科医院の先生が病変部から細胞を採取します。これは柔らかい綿棒で病変部をこするだけなので痛みはありません。採取した細胞はすぐに島根難病研究所に送られて特殊な処理を行った後、翌日には歯科口腔外科に届きます。歯科口腔外科には日本では数少ないお口の細胞の診断ができる専門家が2名います。すぐに患者さんの細胞をダブルチェックで診断し、その結果や最も有効な治療法を考えて、歯科医院に報告します。これで患者さんはお近くの歯科医院に通うだけで、大学と同じ診察と治療を受けることが

できるわけです。もちろん大学での治療が必要な病気であれば、そのまま大学での専門的治療を開始することもあります。歯科医院との連携ができていますので、スムーズに治療を開始できます。この検査法は全国でも非常に珍しく、地域の報道番組でも広く取り上げられました。私たち歯科口腔外科はこのシステムを全国に発信し、日本中の患者さんがお口の健康について安心できる体制をつくろうと頑張っています。



完全ディスポ型経腸栄養剤用バッグに変更しました

臨床栄養部 足立 経一

平成21年6月より、経腸栄養剤ボトルの使用を中止し、完全ディスポ型経腸栄養剤用バッグが採用となりましたのでお知らせします。

経口摂取を含めた“腸を使った栄養管理”が、院内感染対策、抗生物質投与量の減少といった面からも有効であるとの認識が広まり、島根大学医学部附属病院においても経腸栄養剤の使用数が年々増加しています。市販の多くの栄養剤はバッグタイプのものになっており、直接栄養カテーテルに接続でき衛生的に使用できるようになっておりますが、患者さんの個々の病態に合わせて適切な栄養剤を提供しようとする、2～3種類の栄養剤の混用使用が必要となる場合もあります。そのような場合には複数のカップ入り栄養剤やパック入り栄養剤をボトルに移し替えて患者さんに提供され、使用後のボトルは病棟スタッフにより洗浄・消毒・乾燥が行われ再利用されておりました。また、経腸栄養剤の投与は長時間を要するため、朝食用の栄養剤の病棟への提供は夕食の配膳時に行い、看護師が早朝に病棟で混合を行っていました。そのため、病棟での早朝の作業が煩雑となり、栄養剤の種類や量の間違い、混合時の栄養剤への細菌の混入などの医療安全面で問題があり、また、栄養剤の無駄が多いといった課題も存在しました。そこで、臨床栄養部では、完全ディスポ型経腸栄養剤用バッグを5階東病棟において試

験的に導入し、看護師と栄養士のアンケート調査を行いました。その結果、調合時や提供時に取り扱い易く、作業工程時間が削減されました。また、当院検査部と連携し新バッグを使用し混合調整を行った12時間後の栄養剤の細菌検査を3回行いましたが、3回とも細菌は検出されず、衛生管理上も問題ないことが確認されましたので、完全ディスポ型経腸栄養剤用バッグの使用に踏み切りました。臨床栄養部では、患者さんにより安全に栄養が提供されることを目指して日々努力しています。何かありましたら、いつでもお声をかけてください。



平成21年度 病院医学教育研究助成配分一覧

病院長 小林 祥泰

病院医学教育研究費を設置して5年目となり、いろいろなアイデアが実行されその成果が病院ホームページに掲載されています。

病院医学教育センターも、今春、廣瀬昌博センター長が就任して軌道に乗っています。今年度は応募が研究62件と倍近くに増加しています。審査の結果下記のように決定しました。本研究費の目的である医療安全、サービス向上、キャリアアップなどに大いに活用して頂きたいと思います。

研究費部門

研究題名	配分額	研究組織の名称	研究責任者
研修医募集広報誌作成	千円 270	卒後臨床研修センター	山口 修平
倫理委員会発行誌開発	450	医学部医の倫理委員会	小林 祥泰
救急部医師募集広報誌作成	280	医学部附属病院救急部人材発掘プロジェクトチーム	橋口 尚幸
本院における「事前要望書」に関する検証	315	DNR 研究チーム	廣瀬 昌博
患者満足度向上に関する研究	100	患者満足度向上ワーキング	太田 桂子
看護職確保のためのDVDを活用した魅力ある広報活動	270	看護管理室	秦 美恵子
治験における被験者スクリーニングシステムの機能拡張	770	治験管理センター	川内 秀之
本院における研修プログラムに関する統合システムの開発	1,600	病院医学教育センターおよび医療情報部	廣瀬 昌博
医療倫理教育プログラムの開発に関する研究	270	病院医学教育センター	廣瀬 昌博
インターネットの解析法に関する研究 - 新規電子報告システムと従来法の比較検討 -	900	医療安全管理室およびリスクマネージャー会議	三原 美津江
病院アメニティ改善研究	270	会計課経営支援室	斎藤 健児
本院の輸血医療を第三者の視点から点検する	20	輸血部専門部会	竹谷 健
入院環境における睡眠・覚醒リズムの測定と臨床への応用	180	不眠研究会（看護部）	秦 美恵子
病院ホームページモニター研究	100	医療情報部	津本 周作
MRSA感染を対象とした、より効果的な院内感染対策の構築	270	検査部、感染対策室	森山 英彦
本院における抗菌薬の使用状況と医療費に関する研究 - とくに外科系手術におけるクリニカル逸脱症例における医療費との関連について -	360	感染対策室およびクリニカル委員会	廣瀬 昌博
緩和ケアチーム：広報誌作成	270	緩和ケアセンター	斉藤 洋司
胃腸チューブ汚染に対する消化酵素剤（ペリチン）の有効性に関する検討	82	栄養サポートチーム（NST）	足立 経一
クリニカル作成支援・運用促進研究	250	クリニカル委員会	石橋 豊
高齢栄養不良糖尿病患者の半固形化栄養剤を用いた経鼻胃管、胃瘻栄養投与における血糖コントロールに対する有用性について	191	栄養支援対策	川口 美喜子
在宅緩和ケアが可能となる要因	86	医療サービス課、地域医療連携センター	太田 桂子
腹腔鏡補助下大腸切除術における末梢神経障害の発生状況と要因分析	460	看護部（手術部）	園山 雅子
メイクアップケアの患者QOLに及ぼす効果の検証	270	メイクアップケア研究会（皮膚科）	森田 栄伸
プレパター制による医学研修制度の研究	475	外来プレパター制研究会	森田 栄伸
研修医・医学部生・医療従事者の効果的な外来研修システムの開発と検証	147	医学部内科学講座、がん化学療法教育学	磯部 威

研究題名	配分額	研究組織の名称	研究責任者
MRCNS による曝露状況の検索および感染対策の構築	千円 260	MRCNS 対策チーム	坂根 圭子
放射線治療における計画用MRI画像の歪みの影響の研究	100	放射線治療精度向上検討グループ	内田 伸江
職員の健康管理システム改善とリカバーストに関する研究	900	医学部附属病院安全衛生委員会	塩飽 邦憲
研修医・医学部生・医療従事者の効果的なカファルス研修システムの開発	180	医学教育用胸部画像ティーチングファイル作成部会	磯部 威
ルーコールに対応できる院内心肺蘇生法チームトレーニングに関する研究	180	島根大学救急蘇生教育チーム	土井 克史
新入職看護師の職場適応促進のための支援プログラムの継続研究	180	WWAMI Nurse と看護部の研究会	岩田 春子
e-learning システムを用いた円滑な地域連携の試み(1)	80	臨床栄養部	足立 経一
災害に強い医療人の育成と、住民の健康被害を最小限化する地域連携システムの構築の研究	720	(仮) 島根災害医療対策専門部会	橋口 尚幸
島根大学独自の急性肺動脈血栓塞栓症 (APTE) 予知・予防・治療のガイドライン作成	270	島根大学 APTE 対策研究会(地域医療研修センター)	石橋 豊
認知症の脳血流低下部位マップの作成(島根大学データバンクを用いて)	540	放射線部	山本 泰司
遠隔医療システムの移設による遠隔医療支援事業の拡充に向けた検討	1,800	隠岐島前遠隔医療推進研究会	花田 英輔
放射線治療中の摂食および栄養状態の変化についての検討	50	放射線治療時の栄養管理検討グループ	森山 正浩
供給・使用両面でのICMの効果的な使用方法に関する研究	1,800	医学部附属病院 EMS 対応委員会	塩飽 邦憲
FISH 法を用いた尿細胞診検体における尿路上皮癌細胞の検出と評価	1,800	病理部・検査部	原田 祐治
附属病院における急性期ICMリネーションの機能の適正化に関する研究	450	ICMリネーション部	馬庭 壮吉
シミュレータを用いた超音波ガイド下血管穿刺講習による学習効果の研究	180	麻酔科学教室	豊田 浩作
国立大学附属病院初のVascular Lab (Vascular Lab) 運用支援	360	Vascular Lab	石橋 豊
計	18,506		

研修費部門

研究題名	配分額	研究組織の名称	研究責任者
核医学専門技師更新講習会	千円 52	放射線部	山本 泰司
災害派遣医療チーム(DMAT)研修(厚生労働省)	400	災害対策ワーキンググループ	内尾 祐司
地域連携クリエイティブの運用による機能分担と連携強化を目的とした院内医療関係職員の研修のための学会参加・旅費	102	医療サービス課	土江 勉
地域医療連携センター主催「医療連携講演会」の開催	320	地域医療連携センター	川内 秀之
災害派遣医療チーム(DMAT)技能維持研修(厚生労働省)	139	災害対策ワーキンググループ	内尾 祐司
病院感染対策の質向上を目的とした“ICD(Infection Control Doctor)”および“ICP(Infection Control Practitioner)”資格取得のための講習会参加	460	感染対策室およびICT(院内感染対策チーム)	山口 清次
インフェクションコントロールクター(ICD)取得のための講習会受講		検査部	柴田 宏
インフェクションコントロールクター(ICD)資格取得研修		歯科口腔外科	関根 浄治
退院調整に関わる院内医療スタッフの意識改革のための講演会開催と退院調整看護師及び退院支援MSWを育成強化するための研修会	258	地域医療連携センター	川内 秀之
放射線治療専門放射線技師認定試験の受験と教育セミナー	102	放射線部	宮原 善徳
日本化学療法学会-抗菌薬適正使用推進チーム(感染対策室)	120	抗菌薬適正使用推進チーム(感染対策室)	山口 清次

研究題名	配分額	研究組織の名称	研究責任者
がん薬物療法認定薬剤師育成のための集中講座受講	千円 80	薬剤部	直良 浩司
がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用推進のための研修	40	薬剤部	直良 浩司
シミュレーションを用いた人工呼吸装置ルーティング研修	300	集中治療部・麻酔科	三原 亨
保険診療に係る診療録記載研修会 (第35回日本診療情報管理学会学術大会)	91	診療録管理委員会	井川 幹夫
院内がん登録初級者研修	36	院内がん登録委員会	田中 恒夫
BLS講習会への参加	18	検査部	宇野 誓子
医療安全管理の質向上を目的とした“医療安全管理”に関する講習会および研修会への参加	300	医療安全管理室およびリスクマネジメント	山口 清次
保険医療分野の個人情報保護のための教育コース, 第9回MCPO養成コース及び第9回上級MCPO養成コース参加	270	個人情報保護事務局	花田 英輔
ME機器メンテナンス取得および体外循環技術認定士資格取得のための研修	300	MEセンター	矢野 誠司
チームで取り組む内視鏡外科手術トレーニング	280	チームで取り組む内視鏡手術トレーニング	山野井 彰
血管診療認定技師(CVT)取得講習会の参加	77	検査部	新田 江里
医療機器安全管理責任者育成講習会	70	医療安全管理委員会	山口 清次
肺がんCT検診認定技師講習会 - 認定技師試験の受講・受験 -	105	放射線部	梶谷 尊郁
院内がん登録中級者研修	120	院内がん登録委員会	田中 恒夫
「認定サイトリ-技術者」認定試験受験のための指定講習会	120	検査部	三島 清司
平成21年度細胞検査士養成講習会	150	病理部	長崎 雅幸
日本静脈経腸栄養学会・日本病態栄養学会認定の栄養士-チーム専門療法士資格認定のための学会および講習会参加	300	島根大学医学部附属病院 NST	足立 経一
国際細胞検査士資格認定試験及び資格認定試験のための講習会	85	病理部	中村 真由子
栄養士-チーム(NST)合宿	150	栄養士-チーム	NST, 足立経一
Stanford University 派遣事業への参加	260	放射線部	原 真司
院内糖尿病治療のレベルアップを目指した日本糖尿病療養指導士資格認定と島根県糖尿病療養指導士認定資格および認定資格更新のための研修会, 学会参加	300	院内糖尿病療養指導士の会	栗岡 聡一
認定作業療法士取得のための研修	300	リハビリテーション部	馬庭 壮吉
第29回日本医療社会事業学会(ソーシャルワーク実践報告)	96	医療サービス課, 地域医療連携センター	太田 桂子
放射線治療品質管理講習会	85	放射線部	高橋 司伸
医療情報技師能力検定試験受験-医療情報技師認定の取得-	40	放射線部	金山 秀和
日本血管撮影・インターンション専門診療放射線技師認定取得のための研修	135	放射線部	石原 勝美
WWAMI ナースオブザ未来 ~ 継続看護の質向上のための看護師による体験報告会	100	WWAMI ナース会	勝部 久美子
メディカルシステム研究所 脳波基礎コース 脳波マスターコース研修会	90	検査部	石飛 文規
国際モダンホスピタルショー2009参加	140	看護部病院長再開発WG	畠山 留美
乳房超音波検査技術の習得と技術の向上	86	検査部	福間 麻子
計	6,477		

大学病院連携型高度医療人養成推進事業(4大学)プログラム - rural/localからurban/internationalへ -

4大学プログラムコーディネータ・病院医学教育センター 廣瀬 昌博

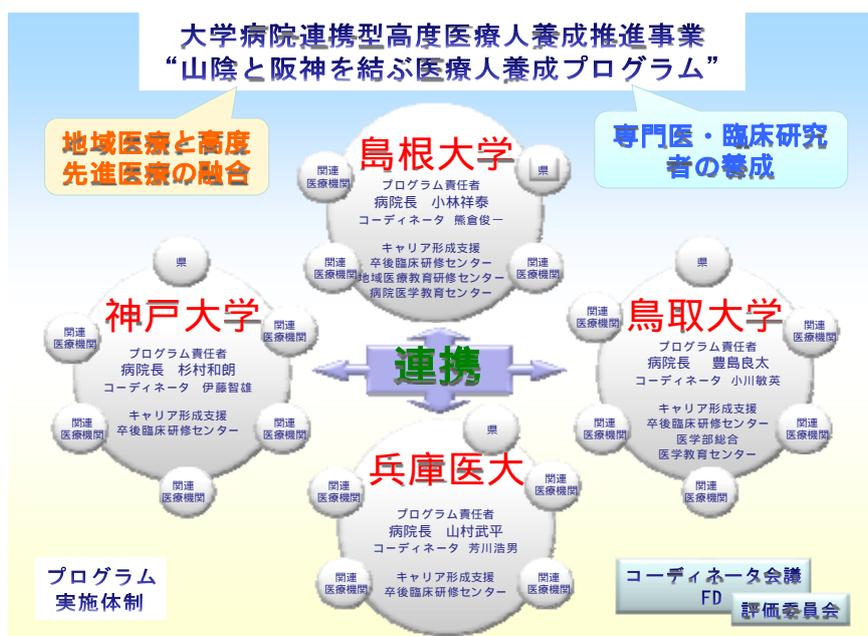
大学病院連携型高度医療人養成推進事業は、図に示しますように大学病院および地域医療の活性化を促進し、将来の医療を担う医師養成の推進を図ることを目的に文部科学省が平成20年度から実施している事業です。初年度は28のプログラムの申請があり、そのうち19のプログラムが採択されました。本院は、申請大学として「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム(4大学)」、参加大学として「都会と地方の協調連携による高度医療人養成プログラム(3大学、東京医科歯科大学申請)」の計2件のプログラムに関与しています。しかも、選定の際、前者が1位、後者が2位という高い評価を得ています。

本事業では専門医あるいは博士の取得を目指している医師が、各参加大学の得意分野での相互補完によって単一大学病院での研修では経験できない症例や症例数の不足を解消するとともに、分野によっては他大学で先進的かつ高度な医療に取り組むことができます。さらに、4大学プログラムでは、「地域医療と高度先進医療の融合による新たな教育システム」をスローガンに、大学病院ばかりでなく各大学の地域関連病院とも連携し、都会と地方、大学と関連病院を順次循環することで、医療技術の習得だけでなく、医療の本質や地

域医療の重要性を肌で感じることであり、人間的にも成長することが可能です。

ところで、本院は、大学病院間連携の重要性を当初から認識しており、昨年度の交流実績は、4大学全体で9名、本学は5名のプログラム参加者がありました。この参加者数は、初年度としての実績として他のプログラムより多く、高い評価を得ています。これは、地理的に不利な状況下で日常的に多忙を極めるなかでも各診療科からご協力を戴いた結果で、本事業を支援するキャリア形成支援部門の全員が感謝しているところです。

しかし、このような文部科学省の支援事業によって、医師を集めるのは重要なことですが、島根大学医学部附属病院が真の意味で地域や国内、さらには国際的に認知され、医師が自ずと集まるためには、学術的・医療技術的に実力ある人材を育て、魅力ある研修プログラムを開発することが重要です。そのために、キャリア形成支援部門も尽力したいと考えています。各診療科の先生方をはじめ、病院職員のみならず方には、今後ともよろしくお願いたします。



クリニカルパスシリーズ 「糖尿病教育入院の電子クリニカルパスの現状と問題点」

内分泌代謝内科 山本 昌弘

当科では電子パス導入にあたり、いわゆる「紙パス」で行っていた糖尿病教育入院パスを電子化して運用しております。主に糖尿病教育歴がない方を対象に、アウトカムとして教育面では糖尿病とその合併症の病態、HbA1cの意義と目標値、糖尿病治療法が理解できることを、実践面では臨床栄養部の協力により、バイキング形式を用いて食事療法の指示カロリーに適した食事量の摂取、インスリン治療患者ではインスリン注射や自己血糖測定器の適切な使用ができることを設定しております。このように当科のパスは自科で完結するものではなく、眼科、検査部、放射線部、リハビリテーション部、薬剤部といった多部門が組み入れられております。電子化に際し新たな予約取得の仕組みを作成して成立した点が特徴です。

電子パス導入から1年が経過し、今後の課題が浮き彫りになりました。1) 電子化により各部門に検査予約を配信することは容易になりました。しかし部門によっ

ては手作業でパス以外の一般の予約との調整を要し、時間外検査で対応していただくなどの負担を強いています。パスの予約と一般の予約を日々の業務内にどの程度組み込むのか、各部門ではなく病院として取り決めが必要です。2) パスの作成・修正はソフトウェアの仕組みの理解と多大な時間を要します。誰でも利用・作成できるような改良が必要です。3) 集積された様々な医療情報を利用し、パスの改良や診療内容の適正化に役立てられるように情報を出力する仕組みが必要です。集計・統計的手法が日常的に利用可能となりうる点は紙パスにはない電子パスの利点です。これらの整備は円滑にアウトカムが検証でき、医療水準の向上に貢献すると思われま

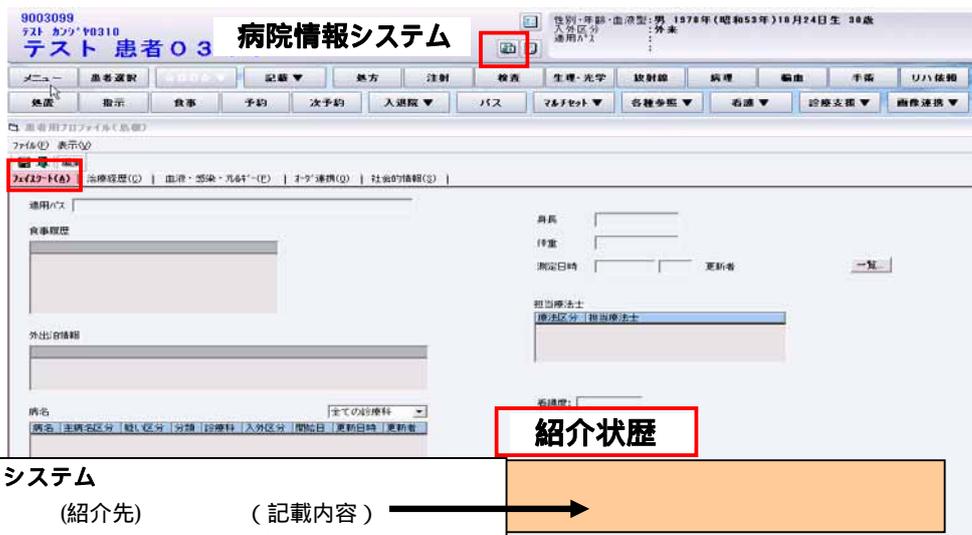
す。基本部分である電子カルテがさらに成熟し、大学が発信する情報の中に電子パスを利用した成果が含まれる時がくることを期待しております。

ERへの「紹介状履歴の表示」による病診連携の推進

地域医療連携センター

平成21年5月29日より、病院情報システム（以下「ER」という。）の患者基本画面上に「紹介状履歴」を表示することになりました。これは、地域医療連携センターで運用している「地域医療情報ネットワークシステム」から紹介状の各種情報を参照し、全ERユー

ザが参照できるようになったものです。これにより、懸案となっていました照会元医療機関へタイムリーに報告書を作成するための情報共有が可能となり、今後の病診連携がより一層推進されるものと期待しています。



島根地域医療情報ネットワークシステム

送受信日	文書種別	紹介元	紹介先	記載内容
5/7	報告書	内科医院	大学病院地域連携	(内容を参照できる。)
5/7	逆紹介状	内科医院	大学病院地域連携	(内容を参照できる。)
3/31	紹介状	大学病院地域連携	内科医院	(内容を参照できる。)

ERの患者基本情報欄に「島根地域医療情報ネットワークシステム」から紹介状履歴（紹介日、返信日、紹介元、紹介先、記載内容（画像を除く））を表示します。

ERにログインするユーザ（職種を問わない）が表示履歴から記載内容を参照できます。

「入院前スクリーニング」の実施による退院支援の強化

地域医療連携センター

地域医療連携センターでは、退院支援の強化を目的として、平成21年5月29日より「入院前スクリーニング」を開始しました。

患者さんの中には、早期退院を阻害する各種の問題を抱えて入院される方も多数いますので、患者さんを取り巻く諸問題に対し、早い段階で関わり支援していくことで病院全体の在院日数の短縮を図るものです。

患者さん・ご家族の方にはこのスクリーニングの目的を説明し、医師、看護師、MSW他のスタッフが共同して転院、施設入所、在宅などの退院先の確保、介護保険サービスの利用、かかりつけ医との連絡・調整など

の支援を行うことを説明し、問診に協力していただいています。

問診した内容は、地域医療連携センターのスタッフが患者データベースに入力し、退院支援の要否を参照できるようになります。また、このデータは入院時に病棟で行われる問診項目と合わせて退院までの重要なデータとなります。

緊急入院の患者さんについては、地域医療連携センターのスタッフが病棟に出向き聴き取りを行いますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

入院前スクリーニングと結果の表示

(目的) 入院患者さんの中には早期退院を阻害する各種の問題を抱えて入院する方も多く、地域医療連携センターでは、入院前の段階で聴き取りを行い支援の必要性を把握することを目的とします。

(流れ)

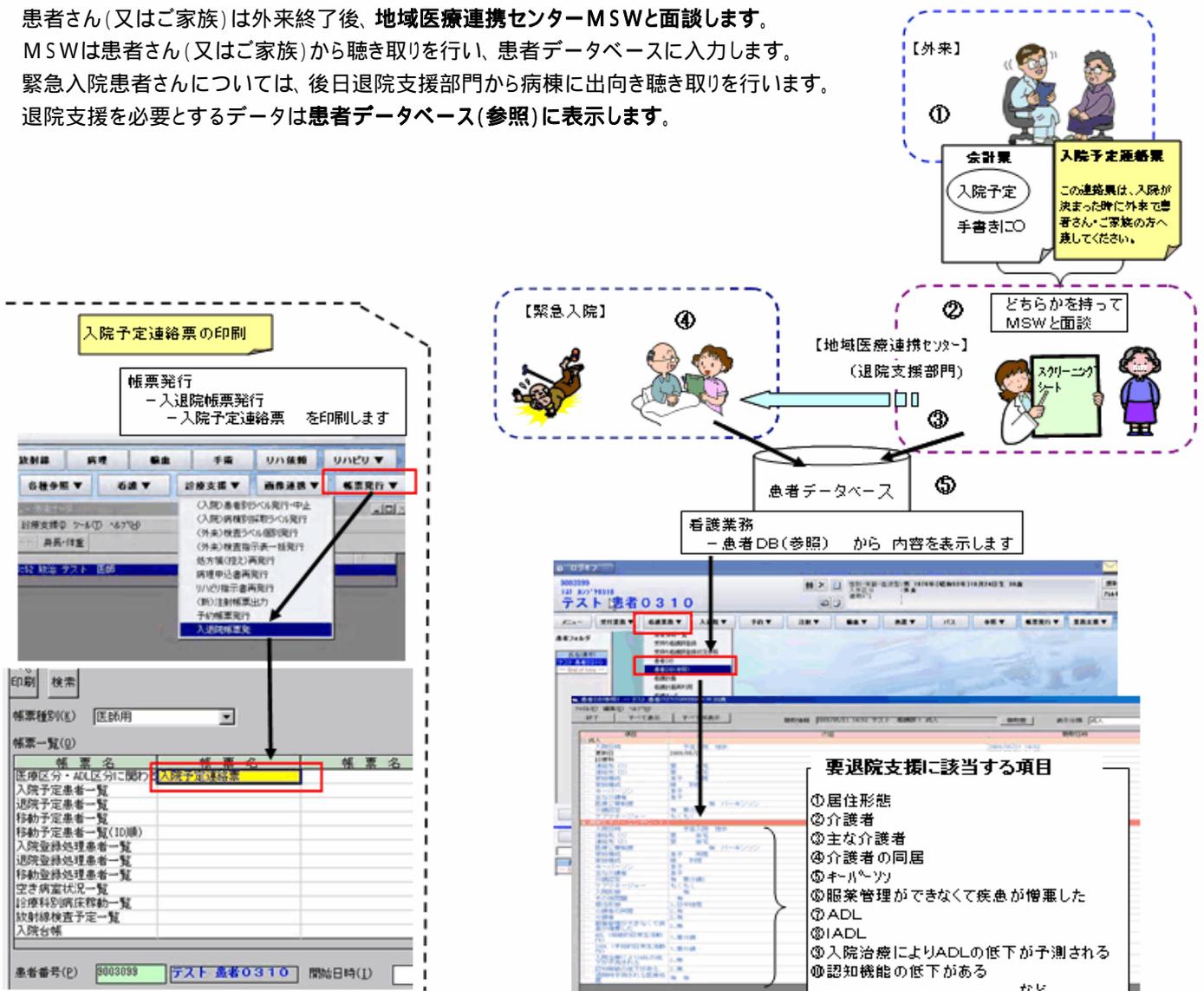
外来で入院が必要と判断された患者さんに地域医療連携センターへの連絡用として「入院予定連絡票」を発行するか又は、会計票に【入院予定】と手書きし青袋に入れます。

患者さん(又はご家族)は外来終了後、地域医療連携センターMSWと面談します。

MSWは患者さん(又はご家族)から聴き取りを行い、患者データベースに入力します。

緊急入院患者さんについては、後日退院支援部門から病棟に出向き聴き取りを行います。

退院支援を必要とするデータは患者データベース(参照)に表示します。



新インシデントレポートシステム「セーフマスター」について

医療安全管理室 廣瀬 昌博

平素より本院の医療安全管理活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。さて、去る6月1日8時30分より、インシデントレポート報告システムが更新されました。インシデントの種類は、厚生労働省のヒヤリ・ハット事業に準拠しており、7分類とされています。しかし、この種類では、例えば輸血・薬剤が同一の種類であるため、より詳細な分析には不適切で、しかも、旧システムでは、統計などが手作業であったことから、本来省力化できるはずのシステムがその機能を果たしていませんでした。そこで、これらを改善するため、病院医学教育研究助成を申請し、今回の導入が実現したものです。

新システムにはいくつか、特徴があります。図に示すように見栄えがよく、入力する気持ちになる(?) より詳細な分析が可能で、統計も簡便に利用できる 医療安全研修が可能である、などです。とくに、日常的に多忙な病院職員が研修会に参加できなかった場合にDVD研修を自習できることや、昨年改正された「臨床研究に関する倫理指針」に対応した医療倫理教育プログラムにより、研究者の受講義務がこれで達成されます。このように、本院の今後の医療安全活動に資することが大いに期待されています。

「医療安全活動」が始まって10年になりますが、われわれも含め、病院職員はこの「医療安全活動」によって医療事故やインシデントが減少したという実感は誰も持っていないと思います。それは、「医療の安全」を確保するためには、小手先の医療安全活動ではなく、欧米並みの医療従事者の適正な配置や地理的な条件で左右されない専門医修練システムの構築、これらを支える適正な診療報酬制度など、医療の根幹をなすべき医療システムが構築されない限り、達成できないからだと考えています。

といっても、そうばかりも言っておられません。今回、導入した新システムを大いに活用し、患者の安全確保と医療の質の向上のために、医療安全管理室およびリスクマネージャーとともに活動を続けていきたいと考えています。そのためには、病院職員のみなさんのご理解とご協力が不可欠であることは言うまでもありません。今後ともよろしくお願いいたします。



Safe Master メニュー画面

2交代制勤務導入後の評価と拡大に向けて

看護部 秦 美恵子

看護部では平成20年10月から、看護職のニーズに合った多様な勤務体制とQOLの改善、夜間移動に伴うリスクからの回避、夜間看護の継続性を目的に、2病棟において2交代制勤務を導入しました。A病棟は看護職全員が2交代制勤務、B病棟は2交代制勤務と3交代制勤務の混合型でスタートしました。

2交代制勤務の試行から約6ヶ月が経過した今年3月に、評価のためのアンケートを実施しましたので、その一部を紹介します。

A病棟：対象20名 B病棟：対象15名（n=35）

【2交代制勤務で辛く感じること】図1

70%以上が「勤務時間が長い」ことを回答

【2交代制勤務の夜間の休憩時間取得状況】図2

休憩時間取得は90%以上が「休憩できる」と回答

【2交代制勤務の疲労度】図3

3交代勤務と比較して、全体では60%が「変わらない」、20%弱が「少なくなった」と回答

【2交代制勤務による業務の変化】

準夜勤務者から深夜勤務者への引継ぎがなくなり、半数以上が「計画的に業務ができる」と回答

【休暇の有効活用】

85%が「2交代制勤務の方が休日を有効に活用できる」と回答

【今後希望する勤務体制について】図4

50%以上が「2交代制勤務」を希望、約40%が「どちらともいえない」と回答。3交代制勤務を希望する看護師は全くいなかった。

以上、昨年度試行的に2交代制勤務を導入した2病棟においては、概ね良い評価が得られました。混合型でスタートした病棟も、今年4月からは全員2交代制勤務に移行しました。また6月からは、新たな病棟が2交代制勤務を導入しました。

しかし、2交代制勤務に関連し、駐車場の確保・深夜帯の夜間保育・休憩室の整備等病院全体で取り組むべき課題も残されています。看護部としては、多様な勤務形態による労働環境の改善の一つとして「2交代制勤務」を位置づけ、今後も拡大していきたいと考えています。関係部署の皆様のご理解とご協力を引き続きお願いいたします。

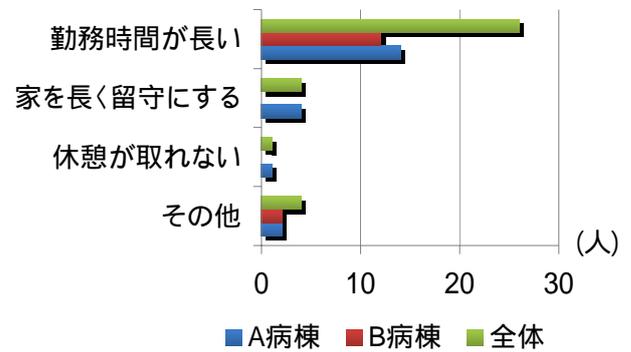


図1 2交代制勤務で辛いこと

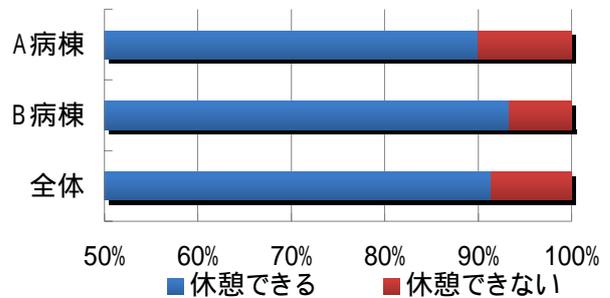


図2 2交代制勤務 夜間の休憩取得状況

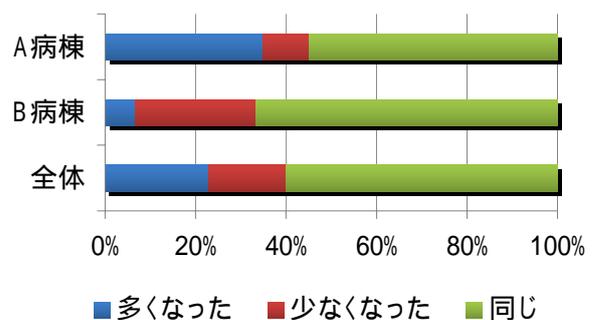


図3 2交代制勤務の疲労度

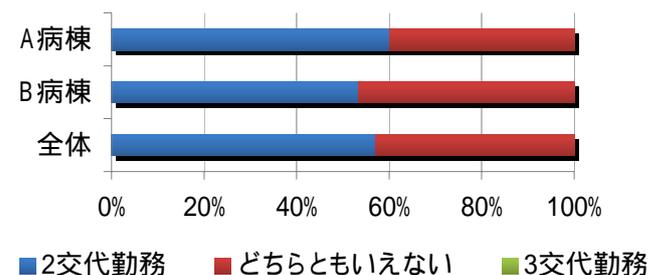


図4 今後希望する勤務体制

本院のユビキタス環境を全国に発信

医療情報部 花田 英輔

さる5月12日から13日にパシフィコ横浜において開催された展示会「ワイヤレス・テクノロジー・パーク2009」(WTP2009、主催：YRP研究開発推進協会)のアカデミアプログラムにおいて、本院の無線通信技術を活用した通信インフラについて、津本医療情報部長および小林病院長との連名で紹介しました。

主な発表内容は本院における病院情報システムの電子化と無線LAN、PHSを用いた無線通信の導入などです。

本院は電子カルテ、フィルムレス、処置や指示を含むフルオーダ化に加え、看護情報の電子化も達成しています。現在稼動している機能は図のとおりです。

なお、主な電子化の達成時期は以下のとおりです。処置・指示を含むフルオーダ化を達成している国立大学病院はほとんど無く、特に看護情報の電子化は全国的にも珍しいものといえます。

- ・フルオーダ化(2006年11月)
- ・完全電子カルテ化(2006年9月)
- ・電子化看護記録(2006年9月)
- ・診断書等の作成(2006年11月)
- ・フィルムレス化(2008年4月)
- ・診療報酬請求業務(2008年4月)
- ・電子紹介状システム(2001年～)

これら電子化された情報は、2003年11月に一般病棟及び精神科病棟に設置した無線LANを通して、ベッドサイドで入力・参照が可能になっています。本院の無線LANはセキュリティ面にも配慮した業務専用のものであり、バーコードリーダと共に各種業務に活用されています。

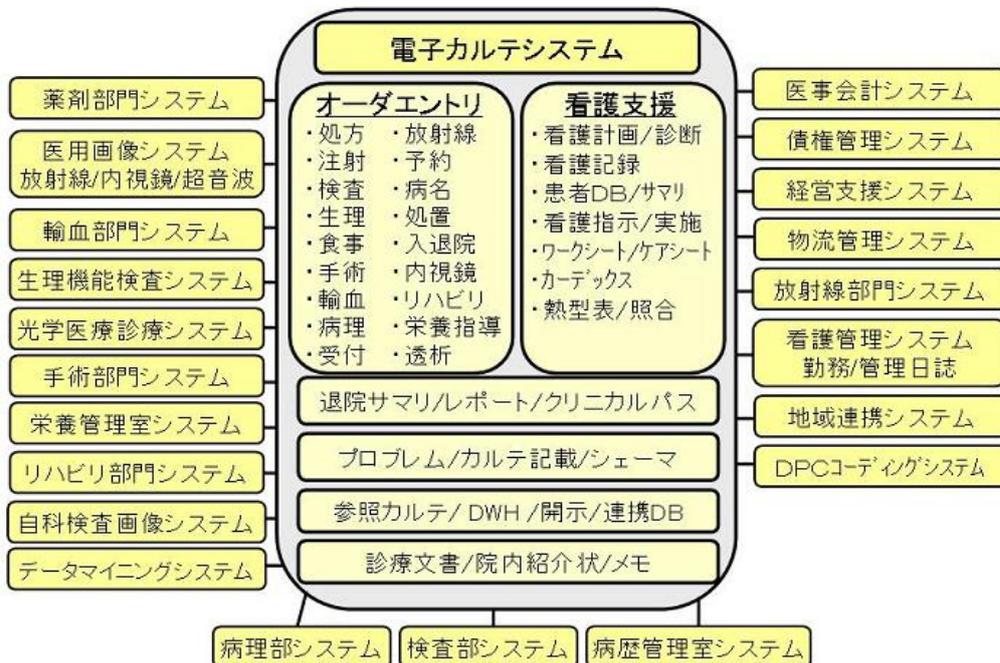
音声通信においても、2004年11月以降公衆PHSを導入し、現在ではほとんどの医師とすべての看護師長がPHS端末を持っています。PHSの導入前後の平日5日間で比較した場合、病棟固定電話への通話回数は約40%減りました。特に薬剤部から病棟固定電話への通話回数は1/5に減っています。また病棟や薬剤部に配布した料金固定のPHSを利用することで月額20万円程度の電話代節減が達成されるなど、業務の効率化につながっています。

以上を総合しますと、本院は、誰もがいつでもどこでも必要な情報にアクセスでき、かつ情報を共有可能な状態を示す「ユビキタス環境(Ubiquitous Environment)」を達成しています。少なくとも国立大学病院において「ユビキタス環境」を達成している病院は本院だけであり、世界的に見ても先進的な情報通信基盤を持つ病院です。

この他にも本院が患者さんに携帯電話の使用を許可している条件を提示するなど、医療におけるユビキタス環境という観点での本院の先進性について、口頭とポスターの両方で発表しました。

WTP2009には2日間で7,500名以上の来場者があり、特に口頭発表後、ポスターには多数の来場者から本院の環境について、質問や賞賛の声をいただきました。

新病棟および改修後の病棟においても、これらのインフラを構築し、さらに新たな機能を付け加えるべく、今後も検討を続ける予定です。



TOSHIBA SUMIDEN MEDICAL INFORMATION SYSTEMS CORPORATION

島根県第一号のがん薬物療法専門医に認定されました

内科科学講座第三（血液内科） 高橋 勉

私は2009年4月1日付けで日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医に島根県で初めて認定されました。現在全国で308名の専門医が認定されていますが、これまで島根県には不在であり、その誕生が多くの患者さんから待望されており、その育成が当院の使命の一つでありました。私は血液内科医として現在まで診療を続けてきましたが、先日残念ながら急逝された恩師で前腫瘍センター長である石倉浩人先生より腫瘍内科医への道を示され、2006年に本学会に入会し、本資格を取得すべく努力しました。この認定試験を受験するためには3臓器以上にわたるがん患者の診療経過要約を30例分提出しなければならず、2008年5月より当院消化器・肝胆膵・乳腺外科の先生方のご厚意により2ヶ月間外科病棟にて研修させていただき、消化器がん、乳がんの症例要約を作成することができました。この場をかりてお世話になった先生方には厚く御礼を申し上げたいと思います。また、私は2007年度に本学大学院腫瘍専門医育成コースに1期生として入学し、充実した講義により最新のがん診療の知識を得ることができました。この専門医資格は合格基準をクリアするのはやや困難であり、都市部のがんセンターなどで研修をうけないと資格取得は困難と思われていましたが、当院にいな



本資格を取得できることを私が体現できたことは手前味噌ながら大きな意義があると思っています。今後がん診療に興味のある若手医師や学生が当院においても十分な教育が受けられるよう、助けになることができればと考えております。残念ながら現時点では専門外のがん種に関しては付け焼き刃程度の知識しかなく、実際の診療ではお役に立てませんが、今後さらに研鑽を重ねて、各診療科の先生方と連携し、当院ならびに島根県のがん診療のさらなる向上に貢献できればと思っています。今後ともご支援のほどをよろしくお願いいたします。

感染管理認定看護師資格を取得しました

感染対策室 坂根 圭子

昨年10月より今年3月まで、日本看護協会神戸研修センターにおいて感染管理認定看護師教育課程を履修いたしました。6月に実施された認定審査に合格し、このたび感染管理認定看護師として活動させて頂くことになりました。研修参加にあたっては、病院からの奨学金制度ができて初めての研修生となりました。皆様のご支援のお陰で無事研修を終えることができ感謝しています。

感染管理認定看護師の役割は、「病院感染サーベイランスの実施」「感染防止技術実施状況の評価と改善」「職業感染対策の立案・実施・評価」「感染管理教育」「感染管理コンサルテーション」「洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント」などのプログラムの作成・実践・評価を通して病院感染のリスクの低減を図ることです。そして、患者さんを守る、医療従事者や病院にいるすべての人を守ることです。神戸研修センターでは「実るほどに頭を垂れる稲穂のように、学ぶほどに謙虚になり、人として成長する」という誓いの言葉を胸に6か月間の研修に臨みましたが、



研修期間中は学ぶほどに考え、悩み、頭が下がる一方でした。臨地実習として大阪大学医学部附属病院でサーベイランス実践や感染管理教育等を経験しました。今後は教育で得た学びと現場での経験を統合しつつ、認定看護師としてしっかり前を向き「よく実った稲穂」となれるよう努力していきたいと思います。

感染対策は直接患者さんと接するスタッフの方々のご協力なくしてできるものではありません。皆様方のご協力を頂きながら、微力ではありますが全力を尽くして職責を果たせるよう頑張りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

認定言語聴覚士(摂食・嚥下障害領域)が誕生しました

リハビリテーション部 馬庭 壮吉

日本言語聴覚士協会では、高度な知識と熟練した技術を用い高水準の業務を行う認定言語聴覚士の資格を新たに設けました。そしてこの度、摂食・嚥下障害領域の認定言語聴覚士がリハビリテーション部から誕生しました。

家田雄・言語聴覚士は、持ち前の粘り強さを武器に、難関と言われているプレゼンテーションと最終試験に合格し、山陰両県初の摂食・嚥下障害領域の認定言語聴覚士(認定番号摂-08-002号)となりました。摂食・嚥下障害の診療にあたる際、「むせる、むせない」ということだけでなく、呼吸状態、口腔衛生、補綴、栄養状態、さらには在宅での管理まで幅広い知識を持って対応していく必要があります。今後も院内の医療の質の向上、患者さんのQOL改善に貢献するこ

とができるよう努力してまいりますので、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



家田 雄 言語聴覚士

産学協同研究「檜製寝具による腰痛軽減効果の調査」

リハビリテーション部 夢沼 拓

本学では産学共同研究事業として地元企業との共同研究を実施し、研究結果を地元へ還元しています。2008年度、リハビリテーション部は荒木建具店(出雲市平田町)と共同研究を実施し、その結果は2009年4月に最終報告が行なわれました。本稿ではその研究内容と結果について報告します。

荒木建具店は島根県産の檜材へ複数のスリットを入れ柔らかくした板を寝具へと応用した製品を開発・販売しています。本製品の使用者から腰痛の軽減効果が複数報告されており、その検証目的で産学連携研究へ依頼されました。

慢性腰痛は骨関節や筋組織の損傷以外にも社会的・心理的要素などさまざまな原因が混在して生じる疾患であるといわれています。「痛み」そのものが他覚的な所見ではないこともあり、除痛のメカニズムの検証よりも、使用することで症状がどう変わるかに主眼をおいて評価を行うことにしました。

調査は慢性腰痛を持つ成人43名(男性24、女性19名)を対象として、8週間を1期として夏期(2008年7月~8月:20名)と冬期(2008年11月~12月:23名)の2期に各人を振り分けて調査を行いました。

全対象者に対して腰痛に関する自己記入式のアンケート調査、すなわちVASおよび疾患特異的・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度(JLEQ: Japan Low back pain Evaluation Questionnaire)を用いて、寝

具の使用で症状がどう変化していくかを追跡調査しました。あわせて腰椎X線写真の撮影を行って、疼痛の程度と腰椎の変性度との関係も評価を行ないました。

最終調査時まで38名の追跡が可能でした。腰椎X線写真上、加齢変化の所見は見られましたが、疼痛の強さと相関は見られませんでした。VAS・JLEQの得点は個人差はあるものの8週間で改善傾向にあり統計学的にも有意な差が生じていました。

今回の調査により慢性腰痛に対するの症状軽減効果が明らかとなりました。疼痛が軽減した要因として、適度な“しなり”による体圧分散効果や檜の香りによるリラクゼーション、スリット間に空気がとどまることによる温度調節などが考えられますが、今回の調査はあくまで症状の変動を捉えることを目的としたため、詳細は明らかとはなっていません。今後製品の物理的特性についての評価も必要と考えられます。



島根の看護師就職キャンペーン『ソレイユ』合同セミナー参加報告

看護部 秦 美恵子

去る5月3日に、出雲のラピタで開催された合同セミナーに当院も参加しました。これは、山陰中央新報社が展開する「しまねの看護師就職キャンペーン『ソレイユ』」の一環として開催されたものです。島根県内の病院の人材確保を目的に、昨年度から実施されています。

今年度は県内の28病院が参加し、23ブースが並び、それぞれが工夫を凝らしていました。当院は、看護部から5名と事務部から1名で参加しました。病院再開発にともなう治療環境、大学病院ならではの教育環境、医学部全体で取り組んでいる働き続けられる労働環境・職場環境などを、アピールしました。今年は、当院に就職して間もない看護師3名も一緒に参加し、ブースに訪れた学生達の不安や疑問に直接答えるようにしました。先輩看護師として、学生にとってより身近な存在として、当院のサポート体制や自身の体験を踏まえたお話しができました。

今回のセミナーでは、1ブース1回30分の時間制限があり、学生達には6ヶ所以上のブースを回るようなルールもありました。この日は、看護職有資格者や看護学生約180名が参加し、当院のブースにも約100名の来場者がありました。来場者の中には既にインターンシップや病院説明会に参加している学生もありました。今後も、病院からの発信を継続し、当院への就職者増員に努めたいと思います。

7月からは、いよいよ平成22年度看護職採用試験が始まります。学校推薦および一般応募のふたつの方法がありますが、いずれも詳細については看護部ホームページに掲載していますので、皆様にもご協力を賜りたいと思います。



インターンシップ

“見て・聞いて・感じる”
看護体験をしてみませんか。

実施期間

平成21年8月3日(月)～4日(火)
プログラム、申し込み方法については
看護部ホームページをご覧ください。

病院見学会

ご希望に応じ、随時実施いたします。
保護者の方の同伴も可能です。
看護部へ直接お申し込みください。

島根大学医学部附属病院
Shimane University Hospital

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

お問い合わせ先

島根大学医学部総務課人事管理室
TEL 0853-20-2021 (直通)

または
島根大学医学部附属病院 看護部
TEL 0853-20-2478 (直通)
<http://www.suh-nurse.jp/>

平成22年度看護職員募集

職種 看護師85名 助産師5名

試験日 <学校推薦>

平成21年7月18日

<一般採用>

平成21年7月25・26日

平成21年8月17・18日

平成21年9月24・25日

早朝MRI検査の試行開始

放射線部

6月23日から外来患者さんを対象とした単純MRI検査の早朝枠が開かれています。当面は8時枠から始めるため早朝のイメージにはやや遠いのですが、様々なリスクが想定されるため、これらに目処を着けた上で早朝の雰囲気少し漂う7時30分枠の設定をしたいと思っています。最初は頭部MRIのみを検査項目としてオーダー画面に掲載しますが、他の単純MRI検査で早朝枠として安定需要が見込める検査については拡大していきたいと考えています。診療科でその要望があれば

放射線部までご連絡ください。早朝検査については、受付が時間外・救急窓口であること。そこからMR検査室までの動線が長く、複雑であること。検査が人手の少ない状態で行われること。等、不安な要素があり、サービスと安全を両立させる上で、頭部MRI検査の中でも対象患者さんが絞られると思われます。オーダー時にこれらの点を留意し選択いただきますようお願いいたします。

医学部会館の利用促進について

医療サービス課

本学の福利厚生施設である医学部会館では、患者さん及びそのご家族の方が利用できる部屋を3室から6室に拡大し、患者サービスの向上を図ることになりました。新たに利用できる部屋（205号～207号）の利用料金は以下のとおりです。宿泊を希望される場合は「病院総合受付窓口」まで相談ください。
(電話による問い合わせ先：医療サービス課医療支援室 0853-20-2069)

医学部会館利用料金表

区 分	使用料金（1室1泊につき）		
	通常期間 （4月1日から6月30日 および 9月1日から11月30日）	冷房期間 （7月1日～8月31日）	暖房期間 （12月1日～3月31日）
201号室（個室） 202号室（個室） 203号室（個室）	1,155円	1,305円	1,475円
205号室（個室） 206号室（個室）	1,260円	1,410円	1,580円
207号室（個室）	1,680円	1,930円	2,090円

病院運営委員会の報告

H21年6月17日 運営委員会開会に先立ち、故 石倉浩人腫瘍センター長のご冥福をお祈りし、出席者による黙禱が行われました。

H21年6月17日 光学医療診療部副部長の選考

所属・職	氏 名	任 期
光学医療診療部・助教	結 城 崇 史	平 21.7.1～平 23.3.31

女性相談外来の受け付けを行っています

医療サービス課

女性相談外来

女性のための女性医師による相談外来です。

女性の方で

「病気のことで女性医師がいれば相談できるのになあ」
 「女性特有の症状で困ったなあ」
 「女性医師にいろいろなことでも相談したいなあ」



こんなお悩みのある方は、当院の女性相談外来にご相談ください。

4名の女性医師がご相談に応じ、適切なアドバイスを行います。

当院は、プライバシーマークを取得した医療機関で、個人情報の管理は適切に行っております。

相談外来の特徴

1. 女性医師による**相談のみを行う**外来ですので、検査、処置、レントゲン撮影等の**診療行為は行いません。**
2. 相談者から、本院の医師または他の医療機関への紹介のご希望があった場合は、適切に紹介を行います。
3. 相談を受けている中で治療が必要と判断した場合は、ご相談者と協議のうえ医師に紹介を行います。

島根大学医学部附属病院

相談外来担当医一覧

(曜日はおおよその目安です。)

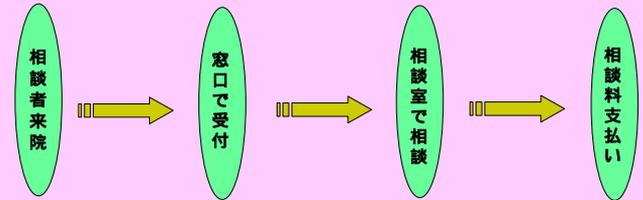
	不定期	第2月曜日	第3木曜日	第4木曜日
医師氏名	大谷 文	内田 伸恵	折出 亜希	山内 美香
専門領域	内科認定医 内視鏡専門医 消化器病専門医 (消化管など)	放射線科専門医 放射線腫瘍学会認定医 (がんの診断と治療、 女性特有のがん)	産婦人科専門医 (更年期、思春期、 月経不順など)	内科認定医 (甲状腺、糖尿病、 骨粗鬆症など)

各医師とも、専門領域に限らず幅広くご相談に応じます。都合によりお休みの場合がありますので、ご相談の際は予め下記にお問い合わせください。

相談料金

30分程度 5,250円(自費料金)

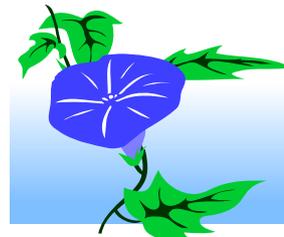
手順



病院1階の受付で「女性相談外来」の受付をしてください。その際、診察券をお持ちの方は診察券を、お持ちでない方は申込用紙に記載のうえご提示ください。受付後は、病院2階の「女性相談室」(皮膚科と内科の間)にお越しください。担当医師とご相談ください。ご相談後は、会計票を病院1階料金計算窓口(5番)担当者にお渡しください。相談料金は、支払い窓口(6番)または自動精算機でお支払いください。

問い合わせ先

ご不明な点は、次のところにお問い合わせください。
 〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援室
 電話: 0853-20-2069、2068
 e-mail: renkei@med.shimane-u.ac.jp



入院中の子どもたちのための花火大会

小児科 山口 清次

平成21年5月5日こどもの日の夜8時から、大学病院に入院中の子どもたちを励まそうと、大社町の花火師多々納恒宏さんたちが神戸川河川敷で花火の打ち上げをして下さいました。今年で3回目です。入院中の子どもたちは、夜空を彩る花火に歓声をあげ、素晴らしいこどもの日のプレゼントに大喜びでした。打ち上げ費用はボランティアで賄われました。病院近くの料理屋さんに募金箱が設置してありますので、皆さんよろしくをお願いします。

(右の写真は5月7日付山陰中央新報社の紙面から引用したものです。)



初夏の落語と紙切り公演会

地域医療連携センター

去る6月2日(火)の19時より病院1階待合ホールで初夏の落語と紙切り公演会を開催しました。

昔から笑うことは病気に対する免疫力を高めるなどなにがしか体に良い影響をもたらすことで知られているところです。本院では、小林病院長の発案で一昨年から開催しているもので、笑いを通し入院患者さんに元気を出していただくとうプロの噺家や芸人を招いた演芸会を企画してきました。

本年の出演は落語家の柳亭左龍さん、紙切り師の林家二楽さんでした。当日は入院患者さんや家族、お見舞いの方、職員など120名が集まり、病院では見ることが少ないプロの芸に拍手と笑いがおこり患者さんには充分満足していただけた1日でした。



ボランティア活動について

天理教島根教区のみなさんにより、平成21年4月29日（水）、ボランティアで附属病院正門付近並びに本部棟東側周辺の草刈り等の環境整備を行っていただきました。

当日は好天に恵まれ、約250の方が午前9時から正午まで3時間にわたり広範囲に環境整備に汗を流してくださいました。

天理教島根教区の方々には、昭和58年から毎年ボランティアで環境整備を行っていただいております。本学からも施設整備課長以下担当者が一緒に作業を行い、地域に根ざした病院として地域住民と共に作り上げていくことが大切であることをあらためて学んだ一日となりました。

施設企画課(出雲)



ボランティアコンサートの報告

4月27日（月）

平田雲州芸能のみなさんの病院訪問



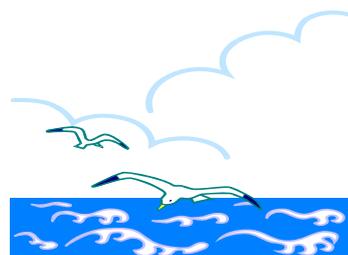
5月29日（金）

ギタレンジャー（木次乳業軽音楽同好会）
によるギターの弾き語りコンサート



6月23日（火）

フローラ室内楽団による演奏会



行事予定

7月行事予定 (は学外行事) (は松江キャンパス)

1	水	教授会、大学院博士課程委員会、医科学修士課程委員会
2	木	ほっとサロン3周年記念コンサート
3	金	学生委員長会議(TV会議)、大学院(医科学修士・推薦)合格発表
5	日	島根大学医学部附属病院卒後臨床研修説明会
6	月	MEセンター専門部会、臨地実習委員会
7	火	病院長副病院長会議、保険診療にかかる研修会、診療録管理委員会、手術部専門部会
8	水	入試懇談会・情報交換会
9	木	中国四国厚生局と島根県との共同による社会保険医療担当者の個別指導、ボランティアコンサート 職員定期健康診断、常任理事懇談会、医の倫理委員会予備審査、感染対策専門部会
10	金	医学部長候補者選出に係る第一次選挙の公示および通知
13	月	教育研究評議会、看護研究倫理委員会、薬事専門部会
14	火	病院経営企画戦略会議、学士入学・看護3年次編入学出願受付(～21日)
15	水	病院運営委員会、看護学科カリキュラム検討委員会
16	木	常任理事懇談会
17	金	国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会、医学部長候補者選出に係る第一次選挙の公示および通知
18	土	第1回地域コーディネータ会議
21	火	医学部長候補者選出に係る第一次選挙投票日、第一次選挙結果の公示、第一次選挙の公示および通知 臨時教授会、病院長・副病院長会議、臨床研究審査部会、役員会
22	水	看護学修士課程委員会
23	木	常任理事懇談会
26	日	平成22年度医科研修医及び歯科研修医選考試験
27	月	医学部長候補者選出に係る第二次選挙投票、臨時教授会、医の倫理委員会、緊急医師確保対策枠受験希望者実習(～31日)
28	火	医学教育指導者フォーラム(東京)、医療保険専門部会
29	水	医学・私学教育指導者のためのワークショップ(東京)、リスクマネージャー会議、ICT会議
30	木	ボランティアコンサート、常任理事懇談会

8月行事予定

5	水	医学部オープンキャンパス
6	木	平成22年度歯科研修医選考試験、夢実現進学チャレンジセミナー(～7日)
11	火	高校生の手術部体験学習
13	木	夏季一斉休業(～14日)
19	水	脳死下臓器提供シミュレーション実施
20	木	平成22年度医科研修医選考試験
22	土	故石倉教授追悼式
23	日	若手医師ステップアップ研修及び意見交換会 医学部看護学科オープンキャンパス
26	水	ボランティアコンサート

9月行事予定

10	木	平成21年度医療法に基づく立入検査
12	土	第8回医療マネジメント学会島根地方会
16	水	ボランティアコンサート
29	火	国立がんセンター実地見学 ISO14001外部審査(～30日)
30	水	島根大学医学部附属病院関連病院長会議 開院30周年記念事業

研修会・講演会・学会等の予定

名 称	日 時	場 所	担 当
【講演会・研修会】			
島根大学医学部附属病院卒後臨床研修説明会	平成21年7月5日(日)13:00～	ラビタウエディングパレス	卒後臨床研修センター
個人情報保護のための平成21年度教育研修	平成21年7月10日(金)18:00～	臨床大講堂	個人情報保護事務局
〃	平成21年7月13日(月)14:00～	〃	〃
〃	〃 18:00～	〃	〃
〃	平成21年7月21日(火)15:00～	〃	〃
〃	〃 18:00～	〃	〃
第1回医療安全のための研修会「医薬品関連医療事故防止の方策」	平成21年7月31日(金)17:30～	臨床大講堂	医療安全管理室
2009年度島根大学がん医療従事者研修会「がん化学療法における職種間の連携と副作用対策」	平成21年8月1日(土)16:00～	看護学科棟N21講義室	腫瘍センター
若手医師ステップアップ研修及び意見交換会	平成21年8月23日(日)13:30～	ウエルシティ島根	卒後臨床研修センター
第48回日本鼻科学会学術講演会	平成21年10月1日(木)～3日(土)	島根県民会館他	耳鼻咽喉科

注) 島根県内で開催されるもの若しくは本院が主催するもので平成21年10月までの予定を掲載

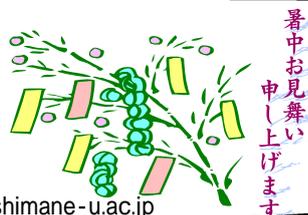
お知らせ

病院ニュースは、医学部ホームページの医学部掲示板にも掲載しております。

編集委員会からのお願い

病院ニュースは年4回発行予定です。
各診療科、各部門、事務部からの投稿をお待ちしております。
行事予定、ニュース、PRなどを編集委員会へお寄せください。
病院ニュースについてご意見があればお知らせください。
担当

医療サービス課 医療支援室(内線2069、2068) Email: renkei@med.shimane-u.ac.jp



暑中お見舞い
申し上げます